

オーガニックな まちづくり

～きさらづ地域循環共生圏の創造に向けて～

木更津市



木更津市の紹介

地理的特性

- ・ 東京都心から車で約40分、東京湾アクアラインで首都圏と直結
- ・ **「都市と自然のちょうど真ん中」**に位置
- ・ 人口は約13万7千人

自然の魅力

- ・ 自然の干潟
- ・ 黄金色の稲穂が広がる田園
- ・ 有機ブルーベリーが実る里山

木更津の最大の強み

日常の一部である、自然干潟の向こうに広がる対岸の景色



なぜ「オーガニック」なのか

「オーガニック」の再定義 「循環」と「つながり」

まち全体のデザイン

🔄 自然と人

↔ 都市と田園

⚖ 経済と福祉

⌛ 今と未来

一見、別々のものに見えるそれらを、有機的に結びつけ、循環させながら社会全体を再構築

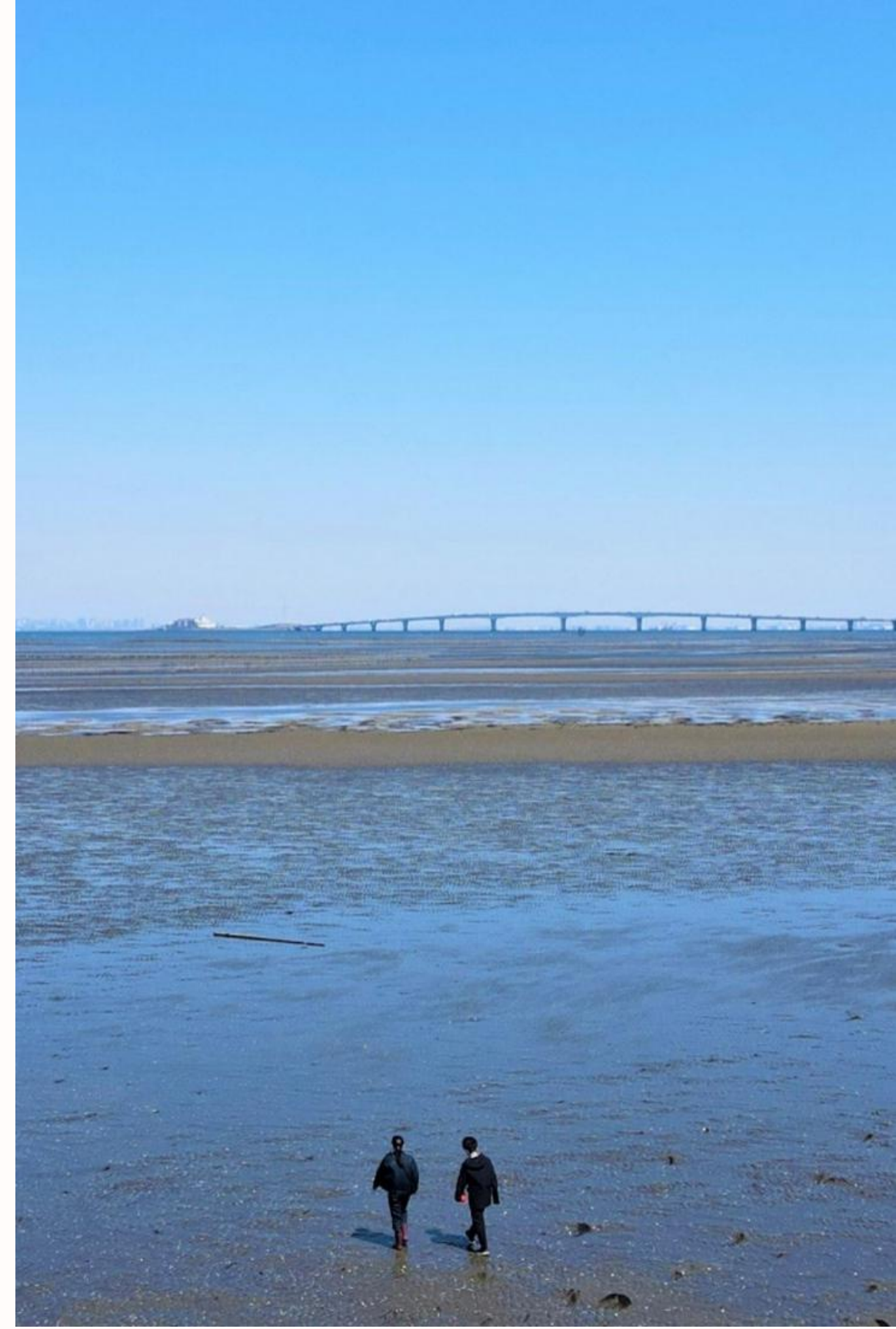


“オーガニックなまちづくり”の基本

まちづくりの心臓部

- 「まち全体をひとつの生命体に見立て、人と人、人と自然が共に息づく仕組みをつくる」という理念

首都圏で里海から里山までのつながる自然を保持してきた木更津だからこそ、都市全体の姿として掲げる意味



「耕す農場」から生まれた種

耕す農場の意義

「農」「食」「アート」「環境」が交わる新しい価値観を提案

農業＝「人と自然をつなぐ文化」
「いのちといのちが循環するアート」



オーガニックなまちづくりの誕生

- 農業を通じた「**人と自然の新しい関係性**」の構築
- 「オーガニック」という言葉が「農の世界の言葉」から「まちづくりの言葉」へ
- 「オーガニック」＝農業を中心に食、自然、命、そしてまちづくりを語る文化

時代の背景 若者たちのローカル志向と自然回帰

東日本大震災

福島原発事故を経験し、日本の社会全体に変化が起きる

2010年代半ば

東京一極集中が進む中、地域への移住が増加

若者運動の誕生

「コミュニティのある地方」「自然と共に」の意識が広がる

若者たちの追求する価値観

自分の足もとで生きることの意味

地域社会の中で自分の存在意義を実感し、自立した生活を追求

自然とともにある暮らしの豊かさ

自然と調和しながら、質の高い生活を送るための探求

オーガニックの理念の誕生

- ・ 若者たちが未来を語る時、口々にしたキーワードが“オーガニック”
- ・ ライフスタイルを形容する言葉から、理想の社会の姿を表現する言葉へと意味が広がり、木更津のまちづくりに繋がる

2016年 木更津市の選択

2014年以降の地方創生の流れのもと、
全国の自治体が「人口減少」や「地域の疲弊」という現実直面

成長よりも成熟を

量よりも暮らしの質を

拡大よりも再生を

- ・ 経済規模を追うのではなく、人と自然の調和の中に持続可能な未来を見出す

木更津市の地方創生の方向性

オーガニックな
まちづくり

2016年

オーガニックなまちづくり条例の制定

商工会議所、観光協会等の企業・団体や市民団体の参画のもと「オーガニックシティプロジェクト推進協議会」が設立

同年12月には議会で「オーガニックなまちづくり条例」が承認されました。

オーガニックアクション パートナーズ

オーガニックなまちづくりに賛同する個人や団体

254

オーガニックアクション 宣言企業

オーガニックアクションを実践する企業に登録を申請

97



一粒のお米から生まれる循環の和

第2期のアクションプランで「木更津SDGsモデル」として発展
重点テーマ = 「食と農」・「防災と減災」・「脱炭素」

- 1 2016年
「木更津米を食べよう条例」が議員発議により制定
- 2 2017年
「地元野菜を食べて循環・学校給食プロジェクト」が始動
- 3 2018年
初めて1日だけ学校給食に有機米が導入
- 4 2019年
学校給食への有機米導入の取り組みがスタート

主要成果

- 生産者は**21**名へと増加
- 有機米生産面積: **33**haへと拡大
- 小学校では、子どもたちが田植えや稲刈りを体験する取り組みが進み、食育の推進に寄与



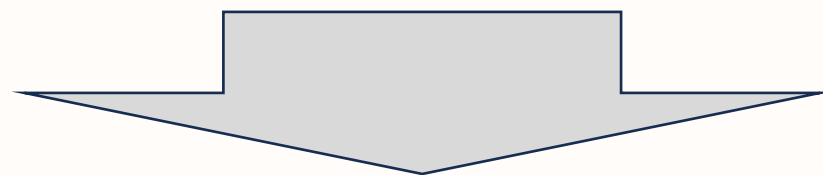
食が人をつなぎ、
人が自然を守り、
自然がまちを育てる

理念を実現する、まちづくりの手法

まちづくりとは、
「**足元の暮らしを丁寧に整えること**」

食、農業、教育、福祉、環境、文化などの分野が
「**人が幸せに生きる**」という根っこでつながる

行政だけで解決できない課題にどう立ち向かうか



「まちをひとつの生命体のように呼吸しあう仕組みづくり」



行政

役割の再定義と協働
の推進



市民

主体的に考え、行動する
意思決定の変革



多様な主体

補い合いながらスピード感
を持って課題解決

地域循環共生圏のフレーム

第3期のアクションプランの基軸



干潟と都市の間の調和

特性を活かし「きさらづ地域循環共生圏」を構築

「地域循環共生圏」とは、環境省が提唱する構想を木更津独自に展開したもの

「オーガニックなまちづくり」

: 自然と人との関係を見つめ直す **思想**



「地域循環共生圏」: 新しいまちづくりの **メカニズム**

5つの専門部会

里山の再生

荒廃した里山の保全・再生を通じて、生物多様性の維持や水源涵養機能の向上を目指す

資源循環の促進

有機性廃棄物の再資源化やリサイクルの推進など、地域内での資源の循環を強化する

食と有機農業

有機農業の推進や地産地消の拡大を通じて、食の安全保障と地域経済の活性化を図る

再生可能エネルギー

地域内での再生可能エネルギーの導入を促進し、エネルギーの地産地消と脱炭素化を推進する

里海の活用

東京湾最大の自然干潟である盤洲干潟の保全と活用を通じて、豊かな自然環境を守り、観光資源としての価値を高める

これまでの成果

有機的に広がる実践の輪

食と農の循環

- 有機給食米の導入により、地域農業の活性化を促進
- 若い世代の新規就農者を増加させる成果
- 「食べること」が「地域を支える行為」である意識が浸透
- 農業支援センターの設立により、耕作放棄地の解消を推進



環境の再生

- 干潟の保全と里山の再生活動の継続
- 有機性廃棄物の堆肥化施設建設が進む
- 干潟資源の活用を通じたブルーカーボンの創出
- 公共施設への再エネの整備



学びと文化の循環

- 里海や里山での自然体験型ツアーリズムの開始
- 学校、地域団体、大学の連携による学習交流が活発化
- 地域課題をテーマにした学びや交流活動の増加
- “KISARAZU ORGANIC CITY FESTIVAL”での市民参加体験



これまでの成果

企業・団体との連携

包括連携協定

あいおいニッセイ同和損害保険(株)／
コカ・コーラボトラーズジャパン(株)／
(株)ホテル三日月／(株)ヤマダホームズ／
三井住友海上火災保険(株)／住友生命保険(相)
清和大学及び清和大学短期大学部／
大塚製薬(株)／第一生命保険(株)／
木更津工業高等専門学校／日本生命保険(相)
日本郵便(株)／明治安田生命保険(相)／
明海大学／(株)千葉薬品／(株)Helte／
総合警備保障(株)／(株)バイウィル／
東京海上日動火災保険(株)／(株)富士薬品／
東京ガス(株)／(株)グリヴィティ

23団体

木更津市連携事業提案制度

全ての行政サービスを対象として、民間事業者からの優れた事業提案を募集

—令和4年度—

【事業化したテーマ設定型】

ICTを活用した子どもの見守りネットワーク事業

—令和5年度—

【事業化したフリー提案型】

脱炭素化推進事業(空調最適化)

—令和6年度—

【テーマ設定型】

- ①情報発信事業 ②脱炭素化事業
- ③使用済み紙おむつの資源化推進事業

【フリー提案型】

市の全ての行政サービスを対象

これまでの成果

海外とのネットワーク

姉妹・友好都市

■ 姉妹都市:

アメリカ合衆国 カリフォルニア州
オーシャンサイド市

■ 友好都市

- ・大韓民国 忠清北道 槐山郡
- ・インドネシア共和国西ジャワ州ボゴール市
- ・台湾 苗栗県 苗栗市
- ・ベトナム社会主義共和国 ダナン市

■ その他交流

国際交流教育ネットワーク

姉妹都市を含む諸外国の都市や学校と、市内小・中学校・高等学校等との交流

■ ネットワーク形成をした学校

市内公立小学校18校、中学校12校
木更津工業高等専門学校、県立木更津高等学校、県立木更津東高等学校、木更津総合高等学校、拓殖大学紅陵高等学校、志学館中等部・高等部、暁星国際小・中・高等学校

■ 今年度の受け入れ実績

- 5月 マレーシア・アラーミン校＋請西小
- 6月 ベトナム・ダナン越日学校
＋第一小・木更津総合高校・木更津高専
- 6月 中国・汪曾祺(オウソウキ)学校＋高柳小
- 9月 インド・N. H ゴエール・ワールド・スクール
＋木更津東高校
- 10月 インドネシア・ラブスクールシブブル中学校
＋金田中
- 12月 ラブスクールジャカルタ中学校(予定)

次の10年の方向性

循環の深化

「点」の取り組みを「面」に広げ、まち全体の仕組みとして定着させる

食の拡大

- 学校給食米の100%オーガニック化を実現
- 対象を米だけでなく、野菜、果物、さらには肉や魚へと拡大
- 子どもたちの口に入るものすべてが「安心で安全」になる仕組みを構築
- 耕作放棄地の解消・都市近郊農業の新たなモデルを創出

「食」が「人」をつなぐ

資源循環の深化

- 食品残渣や下水汚泥を堆肥化し、農地に還元
- 再生可能エネルギーの地産地消体制をさらに拡大
- 市民や企業が共同で投資し、地域のエネルギーを自給自足するモデルを推進
- 里山の再生や里海の保全を進め、ブルーカーボンの拠点として国際的な価値を発信

「人」が「自然」を守る

市民・企業の参画

- オーガニックツーリズムや体験型イベントを通じて、市民や都市部からの来訪者が「循環の一部」として関わる仕組みを拡大
- イベントでのカーボンオフセット導入など、楽しみながら環境貢献につながる工夫を凝らす
- 企業がCSR活動や研究開発の場として木更津を選んでもらえるようなブランド力を強化

「自然」が「まち」を育てる

目指す未来像=「日常の中でオーガニックを体感できる都市」

暮らすことが、誇りになるまちへ

10年後の未来像

再生した里山や干潟が広がり、地域エネルギーで支えられる暮らし、子どもたちが自然と人の中で学び育つ風景が「当たり前の日常」へ



つながり

人と人、人と自然との深い繋がりを大切に



支え合い

地域社会の皆さんが共に支え合う関係を作る



循環

資源の有効活用と持続可能な社会の実現を目指す

「オーガニック」は、「つながり」・「支え合い」・「循環」をもう一度まちの真ん中に取り戻すこと

今日この場で、皆様とその理念を共有し、具体的な実践に学び、次の10年の歩みをともに描けることを心から嬉しく思います。

ありがとうございました❤️

